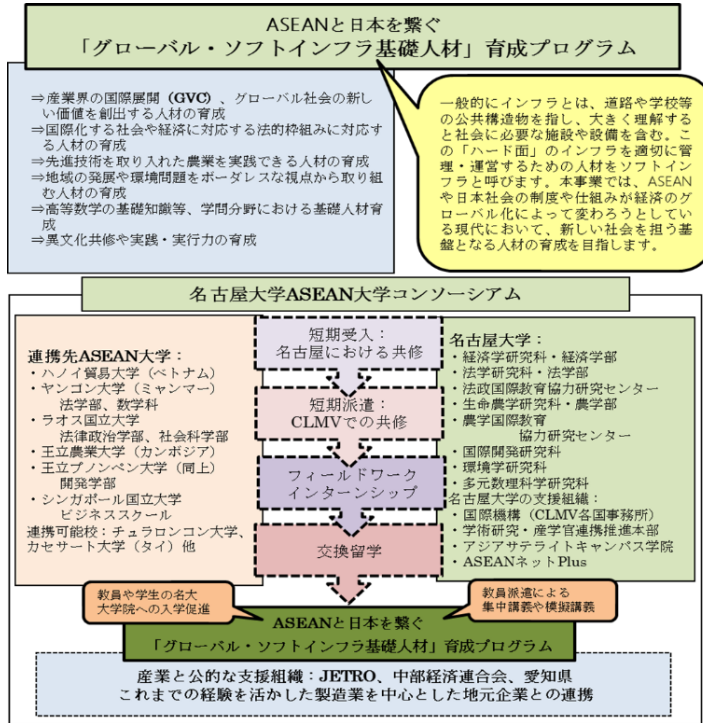


# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 名古屋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))  
**ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム**

## 【事業の概要】

本事業では、高い技術や知識を持った人材が、ボーダレス時代に必要とされている「グローバル・ソフトインフラの基礎力」を身に着けることで、新しい社会に貢献できる人材へと成長を促すことを目標とする。



## 【交流プログラムの概要】

本事業では、本学がこれまで培ってきたCLMVとの研究教育活動を基盤とし、国の枠組みを超えた問題を経営・経済・法律・政治・環境、農業や高等数学の専門基礎力等、学問的な能力とグローバル・ソフトインフラ人材の基礎力を養成する。さらに、これらの問題に直面している企業や公的機関と連動した体験型教育の実施を通して、実践的な人材の育成を目標とする。

## 【本事業で養成する人材像】

本事業では、ASEAN、特に経済的な後進国であるCLMVや日本を含めたアジアで活躍する「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」の育成を目指す。具体的には、ASEANの中でも急激な変化により発展を遂げようとしているCLMVと日本の関係を構築し、多国籍企業や公的機関で活躍できる人材の育成を目指す。

## 【本事業の特徴】

本事業では、経済や法律、さらに社会構造の基盤をなす、経済、法律、政治、国際協力、環境、農業等の幅広い分野の知識を持ち、現実社会での実践的対応力をソフトインフラと定義している。

各プログラムの中で、コミュニケーション能力の強化や関連する専門分野の講義を提供を行う。これにより、専門基礎力とグローバル・ソフトインフラ人材の基礎力が養成され、産学連携による体験型教育を通じて、学識を実践で活用する経験ができる。また、日本人とASEAN学生と一緒に学ぶ、多文化協働能力の向上ができる。

## 【交流予定人数】

<タイプB>

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	36	59	65	62	65
学生の受入	4	41	42	43	42

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

## 【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム】

(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

### ■ 交流プログラムの実施状況

#### ○カンボジア派遣研修プログラム

参加学生は異国の農業を実際に目にする事で、農学に関する専門的知識を身につけた。研修中に訪問国の同年代の学生と英語で討論し、文化の異なる背景をもつ外国人学生との共同作業の経験を積み、国際的な視野が育まれた。グループワークでは、計画立案や成果の取りまとめの討論を通じて協調性を養うとともに、相手の意見をよく聴いて成果をまとめ上げるチーム力・相互理解力を身につけた。



〈カンボジアでのフィールドワーク〉

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生(名古屋大学の正規生)の派遣

平成28年度は、7カ国へ名古屋大学の正規性を派遣するプログラムを実施した。ベトナム短期派遣プログラムに23名、カンボジア(タイ)派遣研修プログラムに37名、シンガポール短期派遣プログラムに5名、ミャンマー・ラオス短期研修派遣プログラムに6名、カンボジア研修派遣プログラムに2名を派遣し、総計73名派遣することができ、計画を大きく上回ることとなった。

<タイプB>

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	36	73
学生の受入	4	4

#### ○ 外国人留学生の受入

平成28年度は、ラオスから短期学生受入プログラムとして2名、ベトナムから交換留学生を2名受け入れた。

平成29年度にはベトナム、カンボジア、ミャンマー、シンガポールから学生の受入を行うことを、平成28年度中の交渉により既に決定している。



〈交流継続協定調印式 シンガポール国立大学にて〉

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

具体的なプログラム実施に向け連携校との対話を進め、各々の国における高等教育制度の相違を踏まえ、効果的な教育プログラムの実施を計画・運営している。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業の採択を契機に大学として全ての学生に適應する「安全・危機管理オリエンテーション」を設置し、平成28年度はできるだけ学生に参加するよう指導し、平成29年度からは義務化することとした。これにより、プログラム実施の担当者だけの危機管理ではなく、何かあれば大学として全面的に支援する仕組みが完成した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

HPを開設し、参加学生への情報提供と共に、本事業の情報公開を目的としている。広報資料として本事業のポスターによりプログラムの周知を拡大した。さらに情報資料によりプログラムの趣旨や内容を理解できるようにした。報告書の作成により成果の普及を行った。平成28年度の報告書は、印刷して関係機関に配布したほか、HPにもPDFを添付し、広く周知できる仕組みを取った。

### ■ グッドプラクティス等

#### ○ビジネスプラクティスワークショップ

愛知県やJETRO名古屋の協力の下、ビジネスプラクティスワークショップを開催することができた。このワークショップは、東南アジアへの進出を実施、または計画している地元企業から現在抱えている現地での課題が提示され、留学生と日本人学生たちが共修を通して解決方法について提案するものである。この取り組みはJETROでも高い評価を受けており、今後も日本企業の海外進出の支援策として新しい産学連携ができるのではないかと期待される。



## 2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈カンボジア派遣プログラム〉



〈ベトナム派遣プログラム〉

平成29年度における本事業の交流プログラムは、全て計画通り実施することができた。具体的には、カンボジア、ベトナム、ラオス、シンガポールへ6つの派遣プログラムを送り出し、カンボジア、ベトナム、ラオス、ミャンマー、シンガポールから学生を受け入れた。各プログラムは、地域の企業や公的機関と連携し、体験型の教育を通して、学識を実践できる能力やそれにとまなうコミュニケーション能力の訓練を行った。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

本プログラムについて学内での説明会開催などを通し、より多くの学生への広報ができていることに伴い、参加希望者が増えている。また日本人学生間でのASEAN諸国に対する関心が高まったことから、海外経験を積みたい学生が第一ステップとして本プログラムへの参加を希望している。

#### ○ 外国人留学生の受入

前年度実施した受入プログラムは加盟校で非常に高く評価されており、本プログラムに参加を希望する学生が多くいると連携している全ての大学から聞いている。多くの連携大学で本プログラムが浸透してきており、参加学生の本プログラムでの学習意欲が増していると感じられる。予算の関係もあり、支援ありの学生受入には限度があるため大幅な受入増加とはいかないが、自弁でも参加を希望する学生もいる。

#### 〈タイプB〉

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	59	104
学生の受入	41	52

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

協定を持っている本プログラムの連携大学とは、単位互換制度等を通じて基盤的な質の保証を確保する枠組みがある。また、実質的な質保証として、様々な企業・公的機関等の協力を得て、短期受入プログラム中に半日/1日インターンシップなどを実施している。座学により習得した知識をもとに、企業スタッフとの議論やプレゼンテーションを経て、製造業の本質、マーケティング等を学習させ複合的に知識を習得することができた。



〈シンガポール派遣プログラム〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

渡航前に学習してほしい内容を課題として提示し、事前の調べ学習を実施してもらっている。異文化理解や危機管理を含めた渡航前オリエンテーションも実施し、これには派遣参加予定の学生全員が参加している。長期派遣学生は担当教員と相談しながら留学計画を作成した。



〈ラオス派遣プログラム〉

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本事業を通して、名古屋大学でこれまで培ってきたASEAN各国との研究・教育の連携が、具体的に広がりを見せている。これまで少なかった東南アジアへの長期交換留学希望者も、徐々にではあるが増えている。日本語と英語の両言語対応ウェブサイトにて随時情報更新を行うのに加え、過去の参加学生のレポートや感想なども積極的に更新している。ホームページのみならずFacebookでも最新情報を発信し、情報の公開・成果の普及を積極的に行っている。



〈中部国際空港にて、H29全体報告会〉

### ■ グッドプラクティス等

JETRO名古屋と協力し、本事業の相手国でビジネスを行っている、または行おうとしている企業と学生たちのワークショップ(WS)を複数回開催した。7月には、シンガポールへ進出しようと考えている企業のマーケティング戦略について、シンガポール国立大学と本学の学生が一緒にディスカッションと発表を行い、企業から高い評価を得た。



〈JETROの支援による企業とのWS〉

### 3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

#### ■ 交流プログラムの実施状況



〈カンボジア派遣プログラム〉



〈ベトナム・FTU受入プログラム〉

平成30年度における本事業の交流プログラムは、計画通りにプログラムを実施することができた。具体的には、カンボジア、ベトナム、ラオス、ミャンマー、シンガポールへ6つの派遣プログラムにより送り出し、同5カ国から学生を受け入れ、それぞれ短期プログラムと長期受入を行った。各プログラムは、地域の企業や公的機関と連携し、体験型の教育を通して、学識を実践できる能力やそれにとまなうコミュニケーション能力の訓練を行った。

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

##### ○ 日本人学生の派遣

本プログラムについて学内での説明会開催などを通し、より多くの学生への広報ができています。各プログラムの説明会には多くの学生が参加し、短期または長期の留学を希望している。また日本人学生間でASEAN諸国に対する関心が高まり、海外経験を積みたい学生が第一ステップとして本プログラムへの参加を希望している。大きな短期プログラムとしては、カンボジア派遣に18名、ベトナム派遣に16名を送り出した。

##### ○ 外国人留学生の受入

前年度実施した受入プログラムは加盟校で非常に高く評価されており、本プログラムに参加を希望する学生が多くいると連携している全ての大学から聞いている。特に企業や地域等の協力の下で行う現地調査や課外研修が加盟校学生の興味を強く引いており、参加学生の本プログラムでの学習意欲が増している。今年度は、予算の関係上、一部のプログラムによる受入が減少した。

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムの連携大学とは、単位互換制度等を通じて基盤的な質の保証を確保する枠組みがある。また、実質的な質保証として、様々な企業・公的機関等の協力を得て、短期受入プログラム中に企業インターンシップやフィールドワークを実施している。座学により習得した知識をもとに、企業スタッフとの議論やプレゼンテーションを経て、学問的な本質と東南アジアの現場を知ること、活用性の高い知識を習得することができた。

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

渡航前に学習してほしい内容を課題として提示し、事前の調べ学習を実施している。異文化理解や危機管理を含めた渡航前オリエンテーションへの参加を義務とし、派遣参加予定の学生全員が参加している。長期派遣学生は担当教員と相談しながら留学計画を作成した。

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

##### 情報の公開、成果の普及

本事業を通して、名古屋大学でこれまで培ってきたASEAN各国との研究・教育の連携が、具体的に広がりを見せている。これまで少なかった東南アジアへの長期交換留学希望者も、徐々にではあるが増えている。日本語と英語の両言語対応ウェブサイトにて随時情報更新を行うのに加え、過去の参加学生のレポートや感想なども積極的に更新している。ホームページのみならずFacebookでも最新情報を発信し、情報の公開・成果の普及を積極的に行っている。

#### ■ グッドプラクティス等

JETRO名古屋と協力し、本事業の相手国でビジネスを行っている、または行おうとしている企業と学生たちのワークショップ(WS)を複数回開催した。例えば、7月には、海外へ進出しようと考えている地元企業のマーケティング戦略について、シンガポール国立大学(7名)と本学の学生と一緒にディスカッションと発表を行い、企業から高い評価を得た。

#### 〈タイプB〉

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	65	88
学生の受入	42	61



〈シンガポール・NUS受入プログラム〉



〈ラオス派遣プログラム〉



〈H30 全体報告会〉



〈H30JETROの支援による企業とのWS〉



## 4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈カンボジア派遣プログラム〉



〈ベトナム・FTU受入プログラム〉

令和元年度における本事業の交流プログラムは、多くのプログラムを計画通りに実施することができた。具体的には、カンボジア、ベトナム、ミャンマー・シンガポール・ラオスから学生を短期・長期の受入れを行った。同5か国について短期・長期の派遣も計画し、概ね計画通りの派遣実施をしたが、新型コロナの影響で、2月に派遣を予定していたシンガポール・ラオスについては、残念ながら派遣を中止した。各プログラムは、地域の企業や公的機関と連携し、体験型の教育を通して、学識を実践できる能力やそれにもなうコミュニケーション能力の訓練を行った。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

学内での各プログラム説明会には多くの学生が参加し、短期・長期留学を希望している。また日本人学生のASEAN諸国への関心が高まり、海外経験を積みたい学生が第一ステップとして本プログラムへの参加希望が増えている。人数が多い短期プログラムでは、カンボジアに19名、タイに17名、ベトナムに14名を派遣した。今年度は新型コロナの影響で、2月に派遣を予定していた2か国(2プログラム)の派遣ができず、派遣人数の減少が生じたが、中止した派遣事業においてもオンラインで交流を図るなどの措置を取り、連携を強化した。

#### ○ 外国人留学生の受入

受入プログラムは加盟校で非常に高く評価されており、本プログラムに参加を希望する学生が多くいる、と連携している大学から聞いている。特に企業や地域等の協力の下で行う現地調査や課外研修が加盟校学生の興味を強く引いており、参加学生の本プログラムでの学習意欲が増している。予算の減少がある中で、自費でも参加を希望する学生も出てきている。

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムの連携大学とは、単位互換制度等を通じて基盤的な質の保証を確保する枠組みがある。また、実質的な質保証として、様々な企業・公的機関等の協力を得て、短期受入プログラム中に企業インターンシップやフィールドワークを実施している。座学により習得した知識をもとに、企業スタッフとの議論やプレゼンテーションを経て、学問的な本質と東南アジアの現場を知ること、活用性の高い知識を習得することができた。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

渡航前に学習してほしい内容を課題として提示し、事前の調べ学習を実施している。異文化理解や危機管理を含めた渡航前オリエンテーションへの参加を義務とし、派遣参加予定の学生全員が参加している。長期派遣学生は担当教員と相談しながら留学計画を作成した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業を通して、名古屋大学で培ってきたASEAN各国との研究・教育の連携が広がっている。本学の交換留学においても、長期交換留学希望者も徐々に増えている。

情報公開面ではウェブサイトにて、日本語と英語の両言語で情報更新し、過去の参加学生のレポートなども積極的に更新している。またFacebookでも最新情報を発信し、情報の公開・成果の普及を積極的に行っている。今年度は新型コロナの影響で、年度末の全体報告会は実施できなかった。

### ■ グッドプラクティス等

一般社団法人「グローバル愛知」の協力を得て、相手国でビジネスを展開したい企業と学生たちのワークショップ(WS)を、講義として単位を付与して実施した。7月には海外へ進出しようと考えている地元企業のマーケティング戦略について、シンガポール国立大学(6名)と本学学生と一緒に討論と発表を行い、企業から高い評価を得た。また2月のシンガポール派遣では、地元企業と連携して現地でも調査を行う予定であったが、新型コロナの影響で派遣事業を中止したため叶わなかった。ただ学生たちは派遣研修前に、自主的に事前調査やアンケートを実施し、派遣プログラムに備えることができた。

#### <タイプB>

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	75	73
学生の受入	60	69



〈シンガポール・NUS受入プログラム〉



〈タイ派遣プログラム〉



〈ベトナム派遣プログラム〉



〈グローバル愛知の支援による企業とのWS〉



## 5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成P】(選定年度28年度・(タイプB))

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈名古屋大学での授業の様子(ミャンマープログラム)〉

令和2年度における本事業の交流プログラムは、新型コロナの影響により、ほとんどが計画通りの実施にはならなかった。具体的には、一部のプログラムはオンラインでの交流に変更して実施できた。例年通りの「体験型」に重きを置いたプログラムの実施は困難であったが、状況に応じて各相手大学と密に連絡を取り合い、この状況下で可能な限り交流を保つことができたことは、今後の連携にとっても大きな一歩であった。

また、10月に実施したミャンマー長期受入プログラムでは、日本への渡航が許可された12月以降、学生2名を実際に受入れ、日本での対面・オンラインでの授業、学生交流の機会を提供できたことは、この状況下での成果である。

### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

新型コロナ禍であったため、実際の日本人学生派遣はできなかった。しかし、どのプログラムにおいても日本人学生は参加に対して意欲的であり、各プログラム説明会(オンライン等で実施)に関しては例年と同等数の学生が参加した。また現地での実施は不可能であった半面、加盟校と密に連絡を取り合い、交流をオンラインで実施するなどの措置を取ることで、加盟校との連携を強化することができた。

#### ○ 外国人留学生の受入

学生派遣同様、現状下において、ほぼ全てのプログラムにおいて実際の学生受入を断念せざるを得なかった。しかし10月よりオンライン実施をしていたミャンマープログラムでは、12月の緊急事態宣言解除後、2名の学生を実際に名古屋大学で受入れ、オンライン・対面を併用しながらプログラムを提供することができたことは大きな成果であった。来年以降については、加盟校からはコロナ終息後の、本プログラム最大の特徴である「企業や地域等の協力の下で行う現地調査や課外研修」の実施への期待が寄せられている。

#### 〈タイプB〉

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	65	10
学生の受入	42	12

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

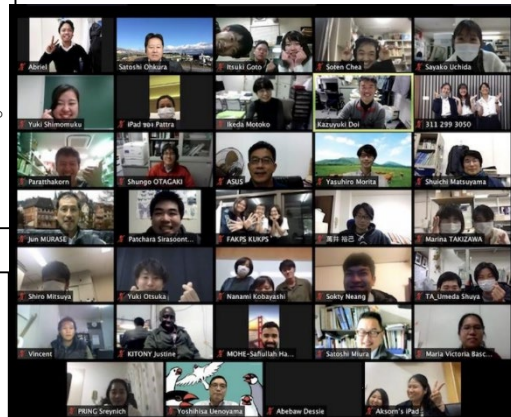
本プログラムの連携大学とは、単位互換制度等を通じて基盤的な質の保証を確保する枠組みがある。また、実質的な質保証として、様々な企業・公的機関等の協力を得て、短期受入プログラム中に企業インターンシップやフィールドワークを実施している。今年度はコロナ禍で学生の実質的な受入は困難であったため、相互オンラインによるフィールドワークを行った。実際に見られない難しさはあったが、オンラインであっても現場で働く方々と交流し、現場を見せていただけたことは、学生の学習に一定の効果があったといえる。



〈Zoomでの交流の様子(カンボジア・ポーンペン大学・王立法経大学)〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

渡航自体はできなかったが、オンライン交流に備え、事前に学習してほしい内容を課題として提示し、両大学学生が可能な限りの調べ学習を実施した。異文化理解や危機管理を含めた渡航前オリエンテーションへの参加を義務とし、派遣可能になった場合に備えて開催を計画した。長期派遣予定であった学生は担当教員と相談して、留学計画を作成した。



〈Zoomでの交流の様子(タイ・カセサート大学)〉

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開、成果の普及

本事業を通し、名古屋大学で培ってきたASEAN各国との研究・教育の連携が広がっている。今年度はコロナ禍で実施が困難であったが、本学の交換留学においても、長期交換留学希望者は依然として増えている。情報公開面では、プログラムのウェブサイトにて日本語と英語の両言語で情報更新し、参加学生のレポートなども更新している。またFacebookでも最新情報を発信し、情報の公開・成果の普及を行っている。昨年度同様、今年度も新型コロナの影響下での集会はリスクがあると判断し、年度末全体報告会は実施しなかった。

### ■ グッドプラクティス等

ミャンマーからの日本渡航にあたり、日本政府のCOVID-19にともなう対応を入念に確認し、学生の不安を取り除くために、複数回の職員によるオリエンテーションを実施した。入国後は、学生寮にて14日間の隔離があり、寮内の共同調理施設を使用できず、食事面での不自由が多かったが、職員が毎晩学生と連絡を取るなど、精神面での支援を行った。実際に来日したことで、母国と比べて蔵書が充実した図書館を利用することができ、レポート執筆時に有益であった。また、チューターやミャンマー・ラオス短期派遣参加学生との交流機会を設け、日本人学生とのチームでミャンマーと日本の法律・政治・社会を比較するプレゼンテーションを行い、充実した相互交流も行うことができた。